

## 算数科学習指導案

平成 20 年 10 月 23 日（木） 4 校時

2 名

指導者 ○○ ○○

- 1 単元名 100 より大きい数 (2)
- 2 単元について

本単元は、300 までの数についてその表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに、数を用いる能力を伸ばすことをねらいとしている。これまでに 200 までの数について、それぞれの言い表し方、数の読み方、書き方、及び数の大小、順序、系列について、少しずつ数範囲を拡張しながら学習してきている。3 位数については児童の発達を考慮し、本単元では 300 までの数を扱うことにする。指導に当たっては、数の理解を確かなものにするために、具体物を数えることで数が生まれることを意識させたい。現段階では 10 より小さい数は、具体物に頼る必要はないが、100、200、300 と進めばやはりその大きさを目で見て確認する必要がある。そこで、具体物を数える、算数タイルを数える、数カードを数える、そして数詞、数字へと移行していく過程を丁寧に指導したいと考える。

本学級に在籍する児童は、

※略

## ○本単元のレディネステストの結果

レディネステストの内容	A児	B児
200 までの数の読み方や表し方が分かる		
200 までの数の大小が分かる		
3 桁の数の読み方や表し方が分かる		
買い物の仕方が分かり、正しく支払うことができる		

(◎ほぼできる ○だいたいできる △ほとんどできない)

また、児童は昨年度「朝マラソン」に取り組み、完走したときにお祝いのホットケーキパーティーをした経験がある。今年度も 4 月から毎朝マラソンに励み、ホットケーキパーティーを楽しむにできた。そこで、材料の買い物を自分たちで行うことができるようにするために、100 より大きい数の学習と買い物ゲームを同時に位置付けた。

本時は、「100 より大きい数 (2)」の 5 時間目で前時に引き続き具体物を数え、命数法や記数法を理解する学習である。具体物（ストロー）を 10 本ずつの束にし、10 本ずつの束が 10 以上できたときは、さらにそれを 10 ずつまとめて 100 本のまとまりにするという操作を通して、数の十進構造に目を向けさせる。そして算数タイルや数カード、3 位数も数の大きさを表すものであることを実感を伴って理解できるように支援していきたい。

## 3 単元の目標

- 300 までの数についてその表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに数を用いる能力を伸ばす。

【関心・意欲・態度】 ・数の数え方や表し方に関心を持つとともに、日常生活の中で活用しようとする。

- 【数学的な考え方】 ・十進位取り記数法のしくみを基に、数の表し方について考える。
- 【表現・処理】 ・300までの数について、数えたり書き表したりすることができる。
- 【知識・理解】 ・300までの数について、数の読み方や書き表し方、数の構成や系列、順序、大小などを理解する。

## 4 指導計画 ( 11時間扱い )

小単元	時数	学習内容	
1 数の表し方	9	2	300未満の数の数え方と唱え方
		3(本時3/3)	300未満の数の数え方と3位数の位取りの原理
		2	300未満の数の構成(合成、分解)
		2	300未満の数の系列、順序、大小
2 買い物ゲーム	2	1	300未満の数の構成の習熟
		1	300未満の数の大小の習熟

## 5 本時の指導

## (1) 共通の目標

- ・身の回りのものを10や100のまとまりにして数えることができる(表現・処理)
- ・300未満の数の数え方と、唱え方や書き方を理解する。(知識・理解)
- ・3位数の位取りの原理を理解する。(知識・理解)

## 個人の目標

A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのものを進んで数えようとする。</li> <li>・10や100のまとまりを基に数を数えることができる。</li> <li>・位取り板を使って3位数の書き表し方が分かる。</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのものを工夫して数えようとする。</li> <li>・10や100のまとまりや数カードを基に数えることができる。</li> <li>・位取り板を使って3位数の書き表し方を理解する。</li> </ul>

## (2) 研究との関わり

① 研究内容2	新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、課題を解決しようとしたりするための手段の選択を取り入れた実践
② 本時における算数的活動について	
ア) 算数的活動	具体物を用いた算数的活動(身の回りにある具体物を用いた活動)
イ) 目的	100より大きい数の命数法や記数法を理解させる。
ウ) 場の設定	身の回りのものを、10や100のまとまりを作って実際に数える。
エ) どのような力が身に付くことを期待するか	10や100のまとまりを作ると数えやすいということに気づき、具体物を数えることでその数の大きさを確認する。
③ 仮説との関わり	
要素2	新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、課題を解決しようとしたりするための手段の選択
	たくさんものを数えるときは、10や100のまとまりを作ると数えやすくなることを確かめる。

(3) 展 開

過程	指導段階と 発問・指示 (○)	学習活動と 個への支援 (●)	留意点 (※) 評価
導入  5分	<p><b>1 問題提示</b> ○ストローがあります。何本くらいあると思いますか。</p> <p>④ ストローの数を 数えましょう</p> <p><b>2 課題設定</b> ○上手な数え方を考えましょう。</p>	<p>(1) ストローの実物を見て、数を予想する。 ●10本束ねたものを提示し、100本よりも多いか少ないか、何本くらいありそうか見当を付けさせる。</p> <p>(2) 本時の学習内容を知ることにより、課題を設定する。</p> <p>⑤ 10や100のまとまりを作って 数えよう</p>	<p>※最初ストローが見えないようにし、音を聞かせるなどして関心を向けさせる。</p> <p>※前時に数えたおはじきを提示し、10や100のまとまりを作ること想起させる。</p>
展開  37分	<p><b>3 課題解決</b> ○二人で10本ずつの束を作りましょう。</p> <p>○ストローは全部で何本ありますか。</p> <p>○ストローの数をタイルや数カードで表しましょう。</p> <p>○ストローの数を数字で表しましょう。</p> <p><b>4 練習</b> ○いろいろなものを数えてみましょう。</p>	<p>(3)-1 二人で協力して10本ずつの束を作る。 ●A児に何を使って束ねるのか聞く。 ●10本の束が10で何本になるのか考えさせる。</p> <p>(3)-2 3位数の構成と命数法を理解する。 ●二百と三十五で「二百三十五」ということを、10や100の束を基に確かめさせる。</p> <p>(3)-3 二百三十五を算数タイルや数カードで表す。 ●位取り板に対応させて実物や算数タイル、数カードを置くように声がけする。</p> <p>(3)-4 3位数の記数法を理解する。 ●B児に「100が2個」はどの位の部屋に書くか聞く。</p> <p>(4) 身の回りのものを数える。 ●おはじきや数え棒、色紙、お金などをテーブルに用意しておき、好きなものを数えるよう促す。 ●実物に数カードに対応させてから、数字で書かせる。</p>	<p>→要素2の実践 たくさんものを数えるときは、10や100のまとまりを作ると数えやすくなることを確かめる。 ※協力して数えることにより、楽しく活動に取り組めるようにする。</p> <p>※実物と算数タイル・数カードが同じ大きさを表すことを実感としてつかませたい。</p> <p>知 3位数の記数法を理解している。 (観察・記録)</p> <p>表 10や100のまとまりにして数えることができる。 (観察、発表)</p>

	<p><b>5 発表</b></p> <p>○数えたものを発表しましょう。</p>	<p>(5)数えたものを見せながら発表する。</p> <p>●「私は△△を数えました。□□□個ありました」と発表するよう助言する。</p>	<p>※お互いの発表に注目させ、称賛の気持ちを表すよう声がけする。</p>
<p>終 末 3 分</p>	<p><b>6 まとめ</b></p> <p>○今日の学習で頑張ったことを発表しましょう。</p> <p><b>7 次時予告</b></p>	<p>(6)学習感想を発表する。</p> <p>●10や100のまとまりを作って数えたことを思い出させる。</p>	<p>※100よりも大きな数を数えることが、お金の学習にもつながることに気付かせ、次時の学習への意欲につなげたい。</p>

(4) 板書計画

も

ストローの数を 数えましょう

か

10や100のまとまりを作って 数えよう

(位取り板)

(タイル図)		
--------	--	--

(数カード)	(数カード)	(数カード)
百のくらい	十のくらい	一のくらい
2	3	5